

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

| | | |
|--------------|----|--------------|
| 所属学部 学科 | 職位 | 氏名 |
| 経営学部 | 教授 | 今瀬政司 |
| 最終学歴 | 学位 | 専門分野 |
| 法政大学経営学部経営学科 | 学士 | 経営・経済・社会・政治学 |

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

- 1.人が幸せになる学びと教育
- 2.夢や希望を描けるような「学び」を得られる教育
- 3.「何のために、誰のために行うのか」を常に自問自答

【目標】

学生の自発力・自主性・自律性を大事にして、学生が自らの成長を実感でき、自らに自信が持てるように努めるとともに、学生の歩みが立ち往生したり、道に迷ったりした際のセーフティネットを常に張って教育を行う。

【方針】

なぜそれを「学ぶ」必要があるのか、その「学び」は何の役に立つのか、学ぶことで自分と誰が幸せになるのか、そういった「学ぶ目的（意義）」を学生が自ら持つことからの教育を行う。また、学生が学びによる「成長」を自ら実感できて客観的にも評価されるような教育、学びの総合力である「成長」が現在に生き、将来の人生に生きるような教育を行う。

【計画（方法）】

担当科目として、地域ビジネス概論a・b、地域振興論、非営利組織論、地域コミュニティ論a・b、地域ビジネス特講Ⅲ、東邦プロジェクトBb、総合演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱを実施する。

授業の基本姿勢として、将来の就職活動や企業・団体・行政機関に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル（「生きる力」「働く力」）の基礎を身につけて「成長する」こと、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とした授業の計画（方法）の実施に努める。

学生がいつでも気軽に講義・課題、進路・就職活動、生活、社会・地域活動等の悩みを相談できるような雰囲気作りを行い、できる限り時間を取ってじっくり対応する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

地域振興論、地域コミュニティ論a・b、東邦プロジェクト、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

（後期）

非営利組織論、地域ビジネス概論a・b、地域ビジネス特講Ⅲ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

◇非営利組織論、地域振興論、地域コミュニティ論a・b、地域ビジネス概論a・b、地域ビジネス特講Ⅲ

・2019年4月に本学着任以来7年間、本学の毎年異なる一人一人の学生の特性やニーズ、および

教育環境等に合わせて、教育方法を前任校での方法から大幅に変えたと共に、毎年、課題点を一つ一つ解決して工夫・改善に取り組むことで、学生の成長度合いが高まる傾向になっている。

- ・大学教育の基本に則って、各回 90 分間の授業中の学びを大事にした。毎回授業で数十枚の詳細な講義スライドを示した上で、学生が口頭説明を耳でしっかり聴いて理解しながらメモを取るように繰り返し勧めて授業を行った。
- ・毎回授業後のレポート課題において、自分なりに整理・要約して、自ら深い探究や考察を行いながら論述して、自身の言葉で文章に表現して伝える能力と習慣を身につけるように工夫した。レポート執筆で著作権を侵害しないことの重要性も併せて説明した。コピー・生成 AI 作成（著作権侵害）等で学習が不十分な場合は、適切に成績評価に反映した。成績評価では公平性を重視した。
- ・毎回授業後に日々地道に復習する習慣づくりを行い、理解して学んだ知識・ノウハウを吸収・消化し自分のものにして、頭にしっかり残しながら、将来の仕事や生活で生かせるようにすることを大事にした。
- ・第 1 回授業において、全 15 回授業の目的・進め方・到達目標・各回概要、出欠席の扱い、ならびに各回授業&期末総括レポート課題（趣旨・内容・文字数・提出期限・注意事項等、成績評価の方法・基準・配点等）について、具体的・詳細に説明を行い、学生との事前共有を行った。学生が目的やスケジュール感を持つようにして、学習意欲を高め、学生と教員間の意識のずれ違いを少なくしていった。

◇専門演習 I・II（3 年生ゼミ）

- ・演習テーマ「社会的課題の解決と地域づくり」のもと、専門的知識・ノウハウの学習を行いながら、ゼミ生自らが希望する具体的な課題テーマや事例等を対象にして、調査研究や実践活動を行って、その成果を卒業論文として執筆した。
- ・大学 4 年間の「学生かつ研究者」としての集大成である「卒業論文（学士論文）」（15,000 字超）について、一連の学習・研究の到達目標と作業工程スケジュールをあらかじめ学生に提示して、共有・理解を得て、一緒に目標を持って取り組んだ。到達目標とスケジュール感を持って、地道に少しずつ学習、課題、研究を行うリズムを作り、全ての受講者が成果を出すことに努めた。
- ・3 年生前期に卒業論文（中間 4,000 字超・7 月 7 日迄／プレゼン版スライド 10 枚以上・7 月 21 日迄）を作成、3 年生後期に卒業論文（中間 8,000 字超・12 月 22 日迄／プレゼン版スライド 15 枚以上・12 月 1 日迄／概要版スライド 1~2 枚・1 月 12 日）を作成した。卒業論文等の執筆では、著作権を侵害しないノウハウ等も併せて学習した。
- ・専門学習や卒業論文等の執筆過程では、随時、成果発表（スライド型プレゼンテーション、会議・対話型発表、面接型発表等）ならびにディスカッションを繰り返し行った。様々な学習・課題を通じて、就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関（公務員））や実践的なビジネススキル（表現する力、受け止める力、協働する力等）を身につけていった。
- ・前期・後期とも、学習計画等や自己評価等のレポート作成を行うと共に、随時、授業、卒業論文・レポート、進路・就職活動、生活、社会活動等について、個別面談指導を行った。

◇総合演習 I・II（2 年生ゼミ）

- ・演習テーマ「人を大切にしながら成長する経営」のもと、前期はテキストをもとに基礎学習と具体的な企業の定性分析、後期は具体的な企業の定量データ分析の知識・ノウハウを主に学習するとともに、各ゼミ生自らが興味のある企業を取り上げて経営分析レポート作成等を行った。レポート執筆では、著作権を侵害しないノウハウを併せて学習した。前期・後期を通して、スライド型プ

レゼンテーション、会議型発表、面接型発表、ならびにディスカッションの練習を行った。

- ・授業の基本姿勢として、将来の就職活動や企業・団体・行政機関に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル（生きる力、働く力）の基礎を身につけて「成長する」こと、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とした。企業経営の本質的な姿を定性的かつ定量的に分析して見抜く知識・ノウハウを実践的に学習するとともに、実務的なビジネススキル（表現する力、受け止める力、協働する力等）を身につけるように努めた。
- ・企業現場への訪問による学外学習（事例研究）として、日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ 2025」に参加して出展企業の取材と研究発表を行った。ゼミ生たちは、企業の日常的な仕事の現場を訪れて、実社会の働く現場の空気を全身で新鮮に感じながら、多種多様な業種の出展企業の社員に直接取材して研究を行った。取材で得た情報をもとに、企業の研究・経営分析レポート（各3社）を作成して、ゼミ内発表会で研究発表を行うと共に、面接型発表の練習を行った。また、メッセナゴヤ出展企業から個別にゼミ生たちへの企業案内等の協力を頂いた。効果として、実践的な経営分析ノウハウを身につけるとともに、自らの将来の進路・就職活動等に対する取り組み姿勢を高めるきっかけとした。

○作成した教科書・教材

- ・一般科目（非営利組織論、地域振興論、地域コミュニティ論 a・b、地域ビジネス概論 a・b、地域ビジネス特講Ⅲ）の全15回の毎回授業でスライド数十枚を作成して講義で活用した。

○自己評価

- ・各学生の特性・ニーズ等に合わせて教育方法の工夫・改善を繰り返すことによって、年々、学生の成長度合いが高まる傾向になっている。
- ・一般科目では半期15回、演習（ゼミ）科目では1年間において、学生たち一人一人が授業の開講時から閉講時を比べると、それぞれに成長する姿を見ることができた。
- ・特に、専門演習ⅠⅡ（3年生）のゼミ生たち、あるいは総合演習（2年生）から専門演習で継続受講したゼミ生たちは、卒業論文やレポートの執筆、発表・ディスカッション、フィールドリサーチ等を通じて、特に成長度合いが高く、著しく大きく成長した。

II 研究活動

○研究課題

次代の社会・経済構造の再構築に係る研究

○目標・計画

【目標】

国内外各地域における様々な社会・経済問題が危機的に深刻化する中、経済不況・国際紛争・災害等を克服する社会・経済構造の構築、自律内発型の経済産業構造の構築、各セクター間（企業・行政・NPO）の協働推進、自治権に基づく地域創生、人が幸せになるための学びと教育創生、国際・民際連携の推進等といった様々な「社会・経済構造の再構築」が求められている。

【計画】

そこで、幾つかのケーススタディ（例：沖縄の基地問題・地域経済振興等、自治と協働による地域づくり、地域と共生する大学等の創生、離島振興、災害と支援活動等に係る調査研究等）を行いながら、次代に適した社会・経済構造の再構築のあり方とその具体的方策を調査研究して提案する。

これまでの研究成果を踏まえた発展的研究として、文献調査・実地調査等を実施するとともに、地域活性学会等の諸学会や NPO・企業・行政・大学等の研究者・実務家等とも連携するなどして研究内容を深めていく。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・Editors: Irene Bernhard, Urban Grasjo & Charlie Karlsson, *"Unlocking Regional Innovation and Entrepreneurship The Potential for Increasing Capacities (New Horizons in Regional Science series)"*, Edward Elgar Publishing, Jun 8 2021, ISBN : 9781800371231, Pages:368, 価格 : 110 ポンド / 165 ドル
Masashi Imase, "Businessization and collaboration of the citizen/non-profit sector in Japan", pp.270-296 (国際出版社、学術共著書籍、単著論文、英文、査読あり)
- ・Editors : Irene Bernhard, Urban Grasjo & Charlie Karlsson, *"Diversity, Innovation And Clusters: Spatial Perspectives (New Horizons in Regional Science series)"*, Edward Elgar Publishing, May 19 2020, ISBN : 9781789902570, Pages:288, 価格 : 95 ポンド / 145 ドル
Masashi Imase, "As an Element of the Regional Innovation Cluster, the Citizen/Non-Profit Sector that Fulfill the "Seedbed Function" of the New Industry", pp.186-206 (国際出版社、学術共著書籍、単著論文、英文、査読あり)
- ・橋本行史編著『地方創生 -新たなモデルを目指して-』(株)創成社、2020年3月10日、今瀬政司「第8章 希望を切り拓く次代の地域創生」pp.186-217、ISBN:978-4-7944-3206-3 (学術共著書籍、単著論文)
- ・Editor: Irene Bernhard, *"Uddevalla Symposium 2019: Unlocking the Potential of Regions Through Entrepreneurship and Innovation (Revised papers first presented at the 22nd Uddevalla Symposium, 27-29 June, 2019, L' Aquila, Italy)"*, University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, December 2019, ISBN : 978-91-88847-40-9, ISSN : 2002-6188, E-ISSN : 2002-6196
Masashi Imase, ""Collaboration" with Company and Government by Citizen/Non-Profit Sector Important for Regional Innovation and Creation of New Industries", pp.217-234 (共著書籍・国際学会論文集、単著論文、英文、査読あり)
- ・Editor: Irène Bernhard, *"Uddevalla Symposium 2018: Diversity, Innovation, Entrepreneurship - Regional, Urban, National and International Perspectives (Revised papers presented at the 21st Uddevalla Symposium, 14-16 June, 2018, Lulea, Sweden)"*, University West, School of Business, Economics and IT, SE-461 86 Trollhattan, Sweden, January 2019, ISBN:978-91-87531-11-9, ISSN:2002-6188
Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen/non-profit sector that fulfil the "seedbed function" of the new industry", pp.207-223 (共著書籍・国際学会論文集、単著論文、英文、査読あり)

（学術論文）

（学会発表）

- ・今瀬政司「沖縄県の米軍基地周辺地区での経済動向」地域活性学会『第17回研究大会』島根県立大学、2025年9月7日、一般研究発表A3セッション（『過疎地における地域活性化～地域と自治体の共創～ 地域活性学会第17回研究大会 in 島根県浜田市 研究発表予稿集』全494頁 pp.215-218（単著））
- ・今瀬政司「神津島に係る研究・活動文献等」地域活性学会離島振興部会・神津島郷(シマ)づくり研究会・日本離島研究会・NPO法人市民活動情報センター『神津島創生サロン』2025年10月4～5日
- ・今瀬政司「2024年能登半島地震の復旧・復興と支援活動」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月7日、一般研究発表Dセッション（『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.371-374（単著））
- ・今瀬政司「災害における離島と半島の危機管理」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月8日、離島振興部会セッション『離島における危機管理マネジメントのあり方』（『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.22）
- ・今瀬政司「沖縄の域内経済循環促進に向けた公契約改革の現状」地域活性学会『第15回研究大会』芸術文化観光専門職大学、2023年9月2日、Eセッション（『第15回研究大会発表予稿集』全394頁、ISSN:1884-0612、pp.86-89（単著））
- ・今瀬政司「沖縄の米軍基地問題と自律循環型地域経済システム構築」地域活性学会『第14回研究大会』関東学院大学、2022年9月11日（『第14回研究大会発表予稿集』ISSN:1884-0612、pp.110-113（単著））
- ・今瀬政司「協働による地域づくりの成功要因と波及課題」地域活性学会『第13回研究大会』オンライン、2021年9月12日（『第13回研究大会論文集』P.108-111（単著））
- ・今瀬政司「コロナ禍での次代の地域創生」地域活性学会『第12回研究大会』オンライン、2020年9月13日（『第12回研究大会論文集』P.144-147（単著））
- ・今瀬政司「"Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries (Revised)」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019年9月15日（『第11回研究大会論文集』（単著））
- ・今瀬政司「市民公益ビジネスによる地域創生」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニティセンター、2019年9月14日（『第11回研究大会論文集』P.21-24（単著））
- ・Masashi Imase, ""Collaboration" with company and government by citizen / non-profit sector important for regional innovation and creation of new industries", *22st Uddevalla Symposium 2019*(国際学会), Gran Sasso Science Institute (GSSI), Viale F. Crispi, 7 67100 L'Aquila, Italy, 2019年6月29日（単著）
- ・今瀬政司「地域イノベーションクラスターの投入資源と新産業の創出プロセス」京都経済短期大学経営・情報学会『2018年度経営・情報学会研究報告会』同大学、2019年3月19日（単著）
- ・今瀬政司「ツチノコ共和国建国30周年と下北山村の村づくり」地域活性学会『第10回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018年9月16日（『第10回研究大会論文集』P.343～344（単著））
- ・今瀬政司「Citizen / non-profit sector fulfilling "seedbed function" of new industry - Input resources of regional innovation clusters and the creation process of new industries - (Revised)」地域活性学会『第10回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018年9月15日

(『第10回研究大会論文集』(単著))

- ・今瀬政司「沖繩米軍基地問題と国策下の地域政策」地域活性学会『第10回研究大会』拓殖大学文京キャンパス、2018年9月15日(『第10回研究大会論文集』P.45~48(単著))
- ・Masashi Imase, "As an element of the regional innovation cluster, the citizen / non-profit sector that fulfill the "seedbed function" of the new industry ", *21st Uddevalla Symposium 2018* (国際学会), Lulea University of Technology, 971 87 Lulea, Sweden, 2018年6月14日(単著)

(特許)

(その他)

- ・今瀬政司「中間総括と展望」市民活動情報センター『「教育創生フォーラム」中間まとめ(第1~5回)』2026年3月
- ・今瀬政司「〈論壇〉基地周辺地区の産業構造改革 自立型経済で基地整理縮小」琉球新報社『琉球新報 2025年9月4日付』(単著)
- ・今瀬政司「これからの地域創生のあり方 ~原点の振返りから~」地方シンクタンク協議会『令和7年度総会講演会』、2025年7月3日(単著)
- ・今瀬政司「教えない教育、自ら学び育つ教育力」法政大学地域研究センター【紀要】『地域イノベーション 2024 vol.17』2025年3月発行、ISSN-1883-3934、pp.114-115(単著)
- ・今瀬政司「大学等と地域の"連携力"の創生」NPO法人市民活動情報センター『第5回教育創生フォーラム -大学等と地域の"連携力"の創生-』Zoom ウェビナー、2025年3月2日
- ・岩井一郎、上嶋晴久、阪本日出雄、高田大輔、二十軒起夫、長谷川徹、藤野正文、待野太郎、吉田昌、今瀬政司『アジアつながりプロジェクト報告書 地域資産の発掘と活用 -社会的つながりの再生強化を目指して-』公益社団法人奈良まちづくりセンター、2024年10月(公益財団法人トヨタ財団「アジアの共通課題と相互交流-学びあいから共感へ-」助成事業(2022国際助成プログラム、2022~24年、「市民参加による社会的つながりを通じ、遺産の継承を目指そう -アジアで学び合おう- アジア・ヘリテージ・ネットワーク「アジアつながりプロジェクト」」)
- ・今瀬政司「地域活性シンポジウム「若者・新人・挑戦者を支える仕掛け×行動×志」」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月8日、ファシリテーター(『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.15-18)
- ・今瀬政司「フィールドリサーチ」地域活性学会『第16回研究大会』名古屋市立大学、2024年9月9日、ファシリテーター(『挑戦のエコシステム 地域活性学会 第16回研究大会 in 愛知県名古屋市 研究発表予稿集』全435頁、ISSN 1884-0612、pp.19)
- ・今瀬政司「地域が必要とする大学・学校の創生」NPO法人市民活動情報センター、地域活性学会東海支部『第4回教育創生フォーラム -地域が必要とする大学・学校の創生-』Zoom ウェビナー、2024年3月2日
- ・今瀬政司「コロナ禍の経験から学ぶ次代の離島振興」地域活性学会『第15回研究大会』芸術文化観光専門職大学、2023年9月3日、離島振興部会セッション、ファシリテーター(『第15回研究大会発表予稿集』全394頁、ISSN:1884-0612、pp.13)
- ・今瀬政司「人が育み、仕事を育み、地域を育む売木村・愛知東邦大学学び合い協働事業」NPO法人市民活動情報センター『第3回教育創生フォーラム-人が育み、仕事を育み、地域を育む学び

合いと協働-』Zoom ウェビナー、2023年2月23日

- ・今瀬政司「地域での学びと教育の創生 -「教育創生フォーラム」の議論と問題提起-」地域活性学会『東海支部月例 Lunchon セミナー』Zoom、2023年2月15日
- ・「特集 地方創生のいま、地域を元気に！ 第59回 ~地域の暮らしを支える仕組みと人づくり~
「今瀬政司 愛知東邦大学経営学部准教授に聞く」 郵便局は社会貢献とビジネスの両立が基本
ハイブリット型（複合型）経営で人をつなぐ」一般社団法人通信研究会 『月刊誌 通信「耀」』
2022年7月号（P.11~15）、2022年7月1日
- ・今瀬政司「人が幸せになる大学の創生をめざして」市民活動情報センター『第2回教育創生フォーラム -人が幸せになる大学の創生をめざして-』Zoom、2022年2月26日
- ・今瀬政司「世のため・人のためになる人財育成-坂本会長ら議論「第2回教育創生フォーラム」
-」人を大切にする経営学会『人を大切にする経営学会メルマガ第361号』2022年1月17日
（単著）
- ・今瀬政司「人が幸せになる学びと教育・各界人材育成の創生をめざして」市民活動情報センター
『教育創生フォーラム -人が幸せになる学びと教育の創生をめざして-』Zoom、2020年10月
31日
- ・今瀬政司「シンポジウム報告「愛知東邦大学地域創造研究所シンポジウム 真の「働き方改革」と
は何か-人を大切にする経営を考える-」愛知東邦大学地域創造研究所『所報 25号』2020年3
月（単著）
- ・今瀬政司「人を大切にする経営と働き方のための人材育成」人を大切にする経営学会『人を大切
にする経営学会メルマガ第263号』2020年2月3日（単著）
- ・今瀬政司「研究発表セッション」地域活性学会『第11回研究大会』長崎県大村市コミュニテ
ィセンター、2019年9月14日、座長
- ・今瀬政司「復興をめざす歴史的建造物のまちイタリア「ラクイラ」」公益社団法人奈良まちづくり
センター『町家くん通信 2019年9月号』2019年9月、P.1-2（単著）
- ・地域活性学会 10周年記念誌編集委員会（今瀬政司、白石史郎、御園慎一郎、鶴飼宏成）『地域活
性の時代 -地域活性学会 10周年記念誌-』地域活性学会、全176頁、2019年3月31日（共
著）
- ・今瀬政司「NPO法20周年とNPOの社会的存在意義」公益社団法人奈良まちづくりセンター『町
家くん通信 2019年1月号』2019年1月、P.1-2（単著）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

- ・地域活性学会（「離島振興部会」部会長・部会事務局長、「東海支部」副支部長、「研究推進委員会」
委員、学会誌編集委員会「論文サポート・スクエア」論文アドバイザー／広報交流委員会「研究
サポートスクエア」エグゼクティブ・アドバイザー、元理事）
- ・日本離島研究会（幹事）
- ・日本NPO学会（会員・元理事）
- ・人を大切にする経営学会（会員）

○自己評価

- ・学会発表（地域活性学会「第17回研究大会」）、その他発表（神津島創生サロン、琉球新報投稿、
中日新聞コメント、地方シンクタンク協議会講演）等の成果を得た。

- ・期初の研究目標・計画は一定程度達成できたが、今後、沖縄の基地問題・地域経済振興等、自治と協働による地域づくり、地域と共生する大学等の創生、離島振興、災害と支援活動等に係る調査研究等を継続して、次年度も更なる研究成果を目指したい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

本学の教育・研究・社会貢献・事務等の大学運営全般に係る仕組み・計画・進め方等を踏まえて担当学務等を適切に実施する。

【計画】

担当学務として、教務委員会委員、入学試験監督、高大連携授業、教育懇談会個人面談、東邦高校入試監督等を担う。

○学内委員等

教務委員会委員、入学試験監督、教育懇談会個人面談

○自己評価

- ・教務委員会に係る教務全般（学則、カリキュラム、履修関係、学籍管理、時間割等）・学士力形成に係る事項等を担った。中央教育審議会答申等に沿った諸規程（学則、全学履修規程、成績評価ガイドライン等）改正の検討・提案を行った。また、前期・後期ガイダンス、入学試験監督（各日程）、教育懇談会個人面談等を担うことで、大学運営の一端に貢献することができた。
- ・留学生（ウズベキスタン出身）の学外奨学金申請 2 件に係るサポート（推薦書執筆、申請書指導等）を行った。
- ・三重県立桑名西高校の探究フィードバックガイダンス（生徒発表・講評、7 月 11 日）、東邦高校国際探究コース・世界探究科「総合的な探究の時間」インタビュー調査（生徒指導、1 月 28 日）への協力を行った。
- ・高大教職員合同研修会（3 月 4 日）に参加して意見交換を行った。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

国内外の様々な分野・地域において、行政・NPO・企業・大学・学会等との連携を図りながら社会・地域貢献の取組みを継続的に行っていく。

【計画】

地域活性学会（離島振興部会部会長、東海支部副支部長、研究推進委員会委員等）、日本離島研究会（幹事）、日本 NPO 学会、人を大切にする経営学会等で学会活動を行う。他大学（法政大学地域研究センター客員研究員等）での研究・教育を行う。教育創生フォーラム（本学後援）等の企画・運営を行うと共に、諸団体の委員・役員等（瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員、市民活動情報センター代表理事、奈良まちづくりセンター理事等）を務める。

○学会活動等

◇地域活性学会

- ・「離島振興部会」部会長・部会事務局長、「東海支部」副支部長、「研究推進委員会」委員、学会誌

編集委員会「論文サポート・スクエア」論文アドバイザー／広報交流委員会「研究サポートスクエア」エグゼクティブ・アドバイザーとして学会活動を行った。

(過去に、理事(任期満了退任)、「地域活性学会第16回研究大会実行委員会」副実行委員長、広報・交流委員会副委員長、10周年記念誌編集委員会編集長、将来像構想特別委員会委員、研究推進委員会委員、研究大会実行委員会実行委員(第8回・第11回)、地域活性学会研究誌「地域活性研究」査読者等を担っている。)

◇日本 NPO 学会

・会員として学会活動を行った。

(過去に、理事(3期任期満了退任)、選挙管理委員会委員、学会会則ワーキンググループ委員、第15回年次大会運営委員会委員、震災特別プロジェクト「東日本大震災における民間支援の軌跡と動向調査」運営委員会幹事等を担っている。)

◇日本離島研究会

・幹事(情報担当)として研究活動を行った。

・「神津島創生サロン」を事務局担当・コーディネーターとして企画・運営全般を担って開催した。

◇人を大切にする経営学会

・会員として学会活動を行った。

◇その他

・「沖縄の基地問題と地域経済振興等に係る調査研究」沖縄県現地調査(2025年8月31日~9月2日)・文献調査等

○地域連携・社会貢献等

◇他大学での研究・教育

・法政大学地域研究センター 客員研究員

◇委員・役員等

・瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員

・特定非営利活動法人市民活動情報センター 代表理事

・公益社団法人奈良まちづくりセンター 理事

・京都府「災害時連携 NPO 等ネットワーク」理事・実行委員

・一般社団法人大阪公共サービス政策センター 理事

・特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ 評議員

・「民間 NPO 支援センター・将来を展望する会」(通称：CEO 会議)メンバー

◇本学後援「第5回教育創生フォーラム-大学等と地域の"連携力"の創生-」企画・運営全般

・録画ビデオと講演資料の公開期間：2025年3月6日~5月31日(開催日：2025年3月2日)

<http://sicnpo.jp/forum250302/>

・参加・視聴者数：753名

・主催：NPO 法人市民活動情報センター

- ・後援：文部科学省、総務省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県、名古屋市、一般社団法人人を大切にする経営学会、地域活性学会東海支部、愛知東邦大学
- ・内容：地域活性化と人材育成で必要とされながら具現化が難しい「大学等と地域の"連携する力"の創生」をテーマに議論した。
- ・登壇者：今瀬政司、高見英樹（文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育政策室長）、田中マキ子（山口県立大学副理事長・学長、公立大学協会副会長）、前田茂人（総務省地域力創造グループ地域政策課理事官）、濱中香理（海士町郷づくり特命担当課長、海士町教育委員会共育課長）、吉岡慎一（市民活動情報センター副代表理事、地域循環共生社会連携協会事業部長）

◇「教育創生フォーラム」中間まとめ（第1～5回）-人の幸せをめざして- 企画・運営全般

- ・内容：登壇者（第1～5回）講演資料、中間総括と展望（今後の検討課題）、関連政策リンク集
- ・主催：NPO 法人市民活動情報センター
- ・後援等（第1～5回）：文部科学省、総務省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県、名古屋市、人を大切にする経営学会、地域活性学会東海支部・離島振興部会、日本離島研究会、愛知東邦大学、愛知東邦大学今瀬政司研究室
- ・ホームページ http://sicnpo.jp/forum_ec1-5_summary/
第1回「人が幸せになる学びと教育の創生をめざして」
第2回「人が幸せになる大学の創生をめざし」
第3回「人が育み、仕事を育み、地域を育む学び合いと協働」
第4回「地域が必要とする大学・学校の創生」
第5回「大学等と地域の"連携力"の創生」

◇「神津島創生サロン」企画・運営全般

- ・日時：2025年10月4日・5日（オンライン企画会議：8月3日）
- ・場所：東京都神津島村各所
- ・共催：神津島郷(シマ)づくり研究会、NPO 法人市民活動情報センター、地域活性学会離島振興部会、日本離島研究会（五十音順）
- ・趣旨：神津島住民と島外の専門家が交流し、島の魅力と課題を共有することで、地域活性化と継続的な発展に向けた新たな視点とアイデアを生み出す。
- ・内容：ディスカッション、研究交流会、視察
 - ・「神津島に係る研究・活動文献等」の発表と議論
 - ・神津島大学構想等の発表と議論
 - ・「神津島に係る研究・活動文献等」収集とデータベース構築構想の発表と議論

◇新聞掲載

- ・今瀬政司「〈論壇〉基地周辺地区の産業構造改革 自立型経済で基地整理縮小」琉球新報社『琉球新報 2025年9月4日付』（再掲）
- ・今瀬政司「〈湖国の現場〉大津・市民活動センターの運営見直し（コメント）」『中日新聞 2025年12月1日付』
- ・東京七島新聞「神津島で創生サロン 島内外の専門家が語る」2025年10月28日付

◇沖縄映画の評価と宣伝への協力

（映画配給会社の委託先「スターキャット(株)」からの協力依頼）

- ・沖縄映画（公開前）の鑑賞・評価、大学・学校・教育機関・研究サークル等への宣伝協力
 - ・『太陽(ティダ)の運命』（制作：琉球放送 TBS テレビ、配給：インターフィルム）
 - ・『木の上の軍隊』（製作幹事・配給：ハピネットファントム・スタジオ）

◇「下北山村ツチノコ共和国」関連の書籍出版への協力

- ・ツチノコ共和国 野崎和生「ツチノコで地域づくり三六年」志村真幸編著『南方熊楠と蛇の博物誌』三弥井書店、2025年11月26日

◇「総務省等施策」の大学等関係者への周知協力

（総務省地域力創造グループ地域政策課からの協力依頼）

- ・総務省「地域力創造に関する施策説明会（各府省庁、5/21-22）開催案内（募集）」の周知協力
- ・総務省「令和6年度補正 大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト（ふるさとミライカレッジ）」モデル実証事業募集（二次公募、4/28~5/30）」の周知協力
- ・総務省地域力創造グループ支援施策パッケージ「総務省の地域と大学の連携につながる施策について（2025年4月）」の周知協力
- ・メール等での周知協力（地域活性学会、日本NPO学会、国公立大の大学ネットワーク組織、大学等関係者、各地自治体、教育委員会等）
- ・今瀬研究室ホームページでの周知協力

○自己評価

- ・学会活動等では、地域活性学会で「離島振興部会」部会長・事務局長、「東海支部」副支部長等を担った。他大学では、法政大学地域研究センターで客員研究員を担った。
- ・地域連携・社会貢献等では、市民活動情報センター主催・本学後援「第5回教育創生フォーラム-大学等と地域の"連携力"の創生-」企画・運営、「教育創生フォーラム」中間まとめ（第1~5回）企画・運営、瀬戸市「瀬戸まちの課題解決応援補助金審査会」審査員等を担った。そうした取組みを通じて一定の社会貢献を果たすことができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

教育、研究、大学運営、社会貢献の各取組みをリンクさせて、成果を相互に活かし合い、相乗効果を発揮できるように努めた。

VI 総括

- ・2019年4月に本学着任以来7年間を経て、本学の大学運営全般に係る仕組みや進め方等のもと、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献それぞれの取組みにおいて、期初の目標・計画は一定程度達成できた。
- ・教育・研究・社会貢献の取組み成果の一部は、本学ホームページで報告すると共に、本学今瀬政司研究室ホームページにも随時掲載した。

http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/

- ・これまでの経験を活かしながら、次年度も教育・研究・大学運営・社会貢献等で更なる工夫・改善、貢献に努めたい。

